



# BUSINESS REPORT

第104期 報告書

# 株主の皆さまへ

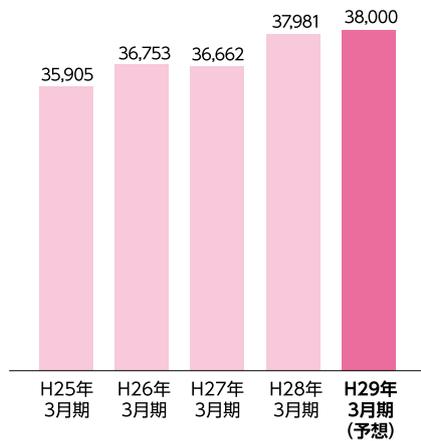
株主の皆さまには、  
平素から格別のご支援を賜わり、  
厚く御礼申し上げます。  
ここに小松精練株式会社  
平成28年3月期の  
(平成27年4月1日から  
平成28年3月31日まで)  
業績についてご報告申し上げます。



## 財務ハイライト

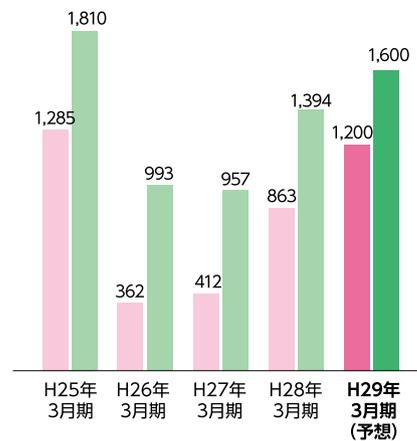
### 売上高

■ 売上高(百万円)



### 営業利益・経常利益

■ 営業利益(百万円)  
■ 経常利益(百万円)



当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済政策や日本銀行の金融政策等により、企業収益や雇用環境の改善傾向が見られるものの、個人消費については未だ回復の兆しが見られない状況が続いております。また、中国をはじめとする新興国経済の減速や、不安定な為替・株式市場などから先行き不透明な状況が続きました。

このような状況の中、当社グループでは高度化する市場の要望に対応するため生産技術の向上を図るとともに、グローバルマーケットに通用する先端ファブリックの開発を加速させました。また、海外企業との提携を含め、海外市場の拡大を積極的に進めました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は37,981百万円(前期比3.6%増)となり、営業利益は863百万円(前期比109.2%増)、経常利益は1,394百万円(前期比45.7%増)、親会社株主に帰属する当

期純利益は864百万円(前期比36.7%増)となりました。

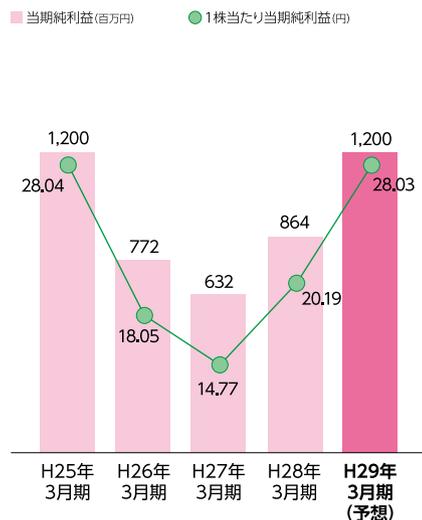
この業績を踏まえ、当期の期末配当金につきましては、普通配当は1株当たり6円とさせていただき、中間配当金と合わせた年間配当金は1株当たり12円となります。

今後におきましては、ファブリックを通して、美・健康・快適・安全・環境の5つのテーマを軸に、人々の生活を豊かにする素材の開発・製造・販売に努めてまいります。さらには、関連する新規分野への開拓を通して社会貢献を図ってまいります。

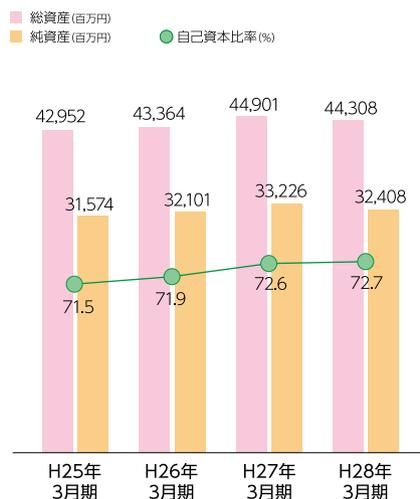
株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

代表取締役社長 池田哲夫

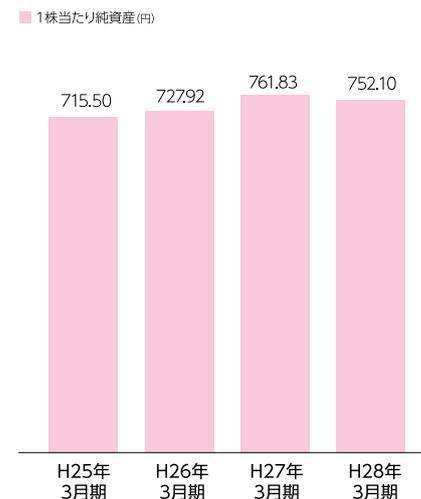
### 当期純利益・1株当たり当期純利益



### 総資産・純資産・自己資本比率

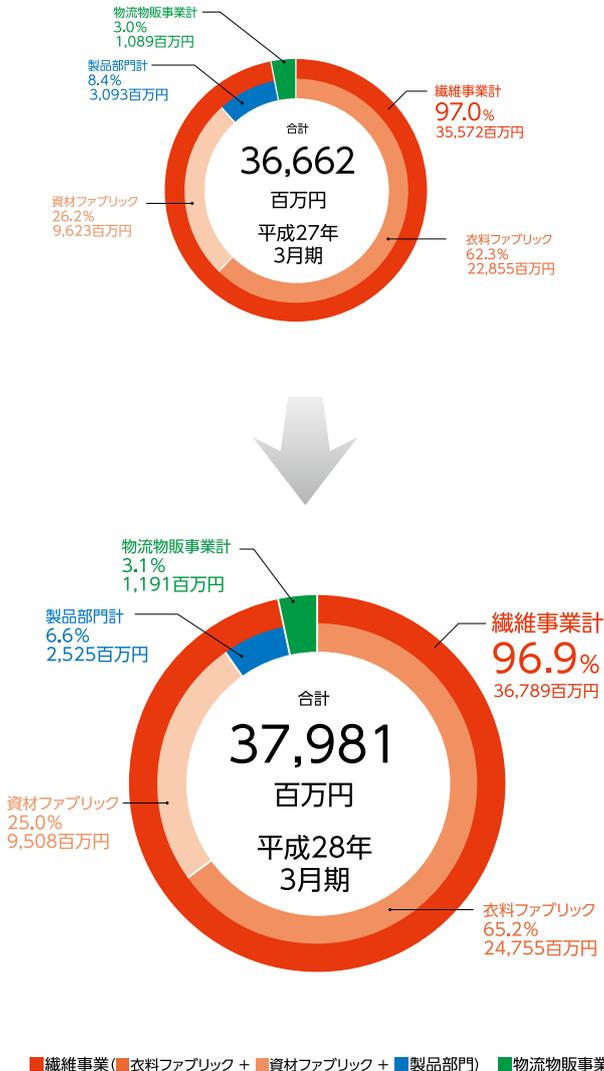


### 1株当たり純資産



## 〔 繊維事業 〕

### ● 事業別売上状況 平成27年4月1日から平成28年3月31日まで



衣料ファブリック部門は、海外市場を中心に市場の維持拡大を図り、高感性・高性能素材の積極的な提案により、ファッション分野、スポーツ分野並びに民族衣装の全分野で順調に拡大し、当部門全体は増加となりました。

資材ファブリック部門は、車輻、生活関連資材が順調に推移し、医療・福祉のメディカル分野もほぼ計画通りとなりましたが、リビング分野は減少となりました。また、グリーンビズなどの環境共生素材は、新たな炭素繊維複合材料の開発や広報活動を継続しております。以上の結果、当部門全体は微減となりました。

製品部門は、計画通り不採算部門の見直しを継続しており減少となりました。

以上の結果、当連結会計年度の当事業の売上高は36,789百万円(前期比3.4%増)となりました。

## 〔 物流物販事業 〕

物流並びに物販分野は順調に増加し、当連結会計年度の売上高は1,191百万円(前期比9.4%増)となりました。

## 〔 国内売上高 〕

ファッション分野が順調に推移するも、スポーツ分野、リビング分野及び製品部門が減少。結果、前期比1.0%減の25,243百万円となりました。

## 〔 海外売上高 〕

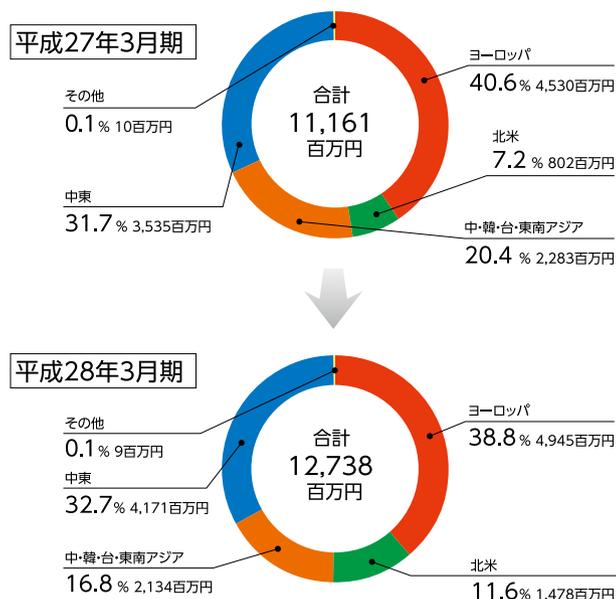
中国向けが減少するも、欧州、中東、北米向けが順調に推移し増加。結果、前期比14.1%増の12,738百万円となりました。

## 〔 次期の見通し 〕

## ● 消費地別売上状況 平成27年4月1日から平成28年3月31日まで



## ● 海外売上高の内訳



次期の見通し (平成29年3月期)	前期比
売上高	38,000 百万円 0.0%増
営業利益	1,200 百万円 39.0%増
経常利益	1,600 百万円 14.7%増
当期純利益	1,200 百万円 38.8%増

次期の経営環境については、低調な国内消費マインドのほか、不安定な国際情勢や新興国経済の鈍化に加え、円高・株安傾向による下振れ懸念もあり、依然として厳しい状況が続くことが予想されます。

このような環境の中、当社グループは安定した成長と持続した収益の向上を図るため、高次加工による商品の差別化と生産性向上の製造改革を推進してまいります。

## ①製造改革の継続と推進

体質強化を図るため、競争力ある商品の開発と提供を強化してまいります。製造改革の推進を継続し、商品開発のみならず省力化や省エネ化、生産性向上への設備投資を継続的に進めてまいります。また、社員教育についても製造現場のみならず、全部門を対象として質的向上を図ってまいります。

## ②先端ファブリックの開発・新規市場の開拓

美・健康・快適・安全・環境の5つのテーマを軸に繊維の新しい価値を創造してまいります。有力企業との業務提携はもとより、産官学との戦略的連携、適地生産のための水平連携等、既存事業や先端材料事業における新たな価値や市場の創造に努めるとともに、近年の「種まき」の成果が業績で認識できるよう取り組みます。

## ③海外市場・非衣料分野の強化

海外市場並びに非衣料分野の拡大を積極的に取り組んでまいります。欧州をはじめとする海外売上高比率を長期的目標として50%に定め、国内外の業務提携企業との更なる関係強化を図ってまいります。また、当社の強みであるファッション衣料分野と同様に、非衣料分野へも継続的に経営資源を投入し、海外でのブランディング向上と市場開拓を強化して成長を目指します。

これらの取り組みをグループ一丸となり推進する事により、平成29年3月期の業績を左記通り見込んでいます。

# 炭素繊維+建築の未来がここから始まる 小松精練ファブリック・ラボラトリー「fa-bo(ファーボ)」

従来の頑強な耐震構造物のイメージを刷新し、ドレープ状の斬新なフォルムが柔らかな意匠をかもしだしています。また、建物を外から支える炭素繊維ロッドが緩やかに空間を区切り、環境と柔らかくコンタクトしています。



当社は、旧日本社棟の耐震補強に世界初となる熱可塑性炭素繊維複合材料「カボコーマ・ストランドロッド」を用いて改築、新たにファブリック・ラボラトリー「fa-bo(ファーボ)」として生まれ変わり、2015年11月13日に落成披露会を開催しました。

1968年に建築された旧日本社棟は、炭素繊維ロッドで布を組成するイメージの外観として生まれ変わりました。耐震補強に用いた「カボコーマ・ストランドロッド」は、先端素材の炭素繊維を芯地に使用し、外層を無機繊維でカバーリングしたものに熱可塑性樹脂を含浸させ作製した熱可塑性炭素繊維複合材料です。「ファーボ」は、世界的に有名な建築家・隈研吾氏(東京大学教授)が設計を手がけ、地面と既存躯体をつなぎ、ドレープをモチーフとし、建物がレースを纏っている様な軽

やかな外観を実現。また、断熱性や遮音性にも優れているエコ建材「グリーンビズ」を外構や屋上庭園に採用、緑豊かな環境を整備するとともに機能性も充実した建築物となりました。

小松精練では、「ファーボ」を地域の繊維産業の歴史を学び素材や技術を伝承する場とするとともに、未来を創造し、ファブリックの可能性を引き出す空間として活用していきます。



カボコーマ・ストランドロッド



グリーンビズ



[ fa-bo ロゴ ]

カボコーマ・ストランドロッドが建物を外から支える柔らかなデザインです。ドレープ状の新しい建築を主張するこのロゴマークは細い糸から布が組成される、繊維そのものを表現しています。

## 異空間へと様変わりした内装

「ファーボ」の各フロアには、いたるところにこだわりと工夫を凝らしています。特に3階のアーカイブフロアでは、小松精練のテクノロジーや歴史を子どもたちにも楽しんでもらえるような演出を施しています。ファーボそれ自体が繊維の可能性を感じさせる作品となっています。

### 1F エントランスホール



天井や壁には柔らかな凹凸を表現したファブリックが使われています。白を基調とするファブリックが、板材よりも軽く柔らかな印象を与え、繊維の建材用途としての新たな可能性を提案しています。

### 1F ラボスペース



染色やプリントの実験や商品の機能性などを体験できるコーナー。この他にもランプシェイドや空調フィルター、スクリーンなどふんだんに小松精練の繊維素材が使用されています。

### 2F オープン・スペース



工場内を覗けるオープン・スペース。稼働している工場のダイナミズムが伝わってきます。中央には、グリーンビズを樹脂加工して制作された「グリーンビズ・テーブル」を設置。その中央にハーブなどの観葉植物を並べ、独特の質感のあるインテリアとして提案しています。

### 屋上 屋上緑化



「グリーンビズ」を用い、立体的でダイナミックな屋上緑化「グリーンビズ・カーペット」。眼下に広がる日本海や白山連峰の雄大な眺望に彩りを添えています。また、足元の床材には強度を3倍に高めた「グリーンビズ・フロア」を置き、涼しいデッキ空間を作りました。

### 3F ～アーカイブフロア～

アーカイブフロアはテーマごとに分かれており、当社の繊維加工の流れや加工技術を知り、繊維製品の機能と魅力を体験できるコーナーを設けております。また、繊維産業と当社の歴史を展示に触れながら学べる空間をご覧ください。

#### Technology テクノロジーゾーン テーマは「かえる」

ファブリックが作られる生産プロセスをサンプルやアニメーションも交えながら誰にでも分かりやすく、楽しみながら学べるように表現しています。



#### Creativity クリエイティビティゾーン テーマは「つくる」

繊維の色、風合い、機能に触れられる各種のアイテムをそろえています。

#### History ヒストリーゾーン テーマは「さぐる」

北陸産地における繊維の歴史や小松精練の歩みを、展示物などを添えながら紹介しています。



夜ライトアップされると外周の炭素繊維ロッドがまるで兼六園の雪吊りや極地のオーロラの様に見える。



## 互いの強みを活かし商品開発と海外事業を強化 KOLON FASHION MATERIAL社と包括提携



2015年10月21日に当社は、韓国の財閥KOLONグループ傘下の繊維素材メーカーであるKOLON FASHION MATERIAL社（コーロン・ファッション・マテリアル社 以下KFM社）と、繊維事業での包括提携を締結しました。

この包括提携は市場における両社の存在価値をさらに高めるため、商品及びサービスを提供し合い、互いの新商品開発と販売拡大を図るためのものです。

### 包括提携に至るまでの経緯

当社とKFM社との関係は、今から約3年前にさかのぼります。KFM社が高機能透湿防水素材の開発を進めていた際、小松精練の透湿防水素材を採用した事が始まりです。小松精練はKFM社に対し、その後も高感性ファブリックや機能ファブリックを継続して提案・販売していました。その間、両社が相互に海外市場での販売拡大を目標とする中で、販売に関する協業や、技術者間の交流を重ねたことが両社の発展の大きな要素となり、今回の包括的提携に至りました。

### 包括提携の内容

2016年から2020年の5ヶ年の契約期間で、両社は保有する技術的資源、設備を活用し、グローバル市場での販売拡大を計ります。また、両社の強みを活かした共同製品を開発し、販売するため、マーケティング活動についても共同で行っていきます。

今後、事業拡大に向け、合併での販売会社・生産工場の設立も視野に入れております。

### ■包括提携に係る売上高



### ■包括連携に係る共同事業による売上高



今回の提携で既存のビジネスの拡大はもとより、当社が弱かった分野や、KFM社を軸としたKOLONグループとの新たなビジネスモデルの促進が期待されます。

### 新商品

難燃素材で「ISO20471」に適合する  
オレンジレッドの開発  
高視認性難燃繊維素材「mieeru(ミエール)」



当社は、高視認性衣服の国際規格「ISO20471」に対応した高視認性難燃繊維素材「mieeru」を開発しました。世界的に高視認性安全服の標準化が進む中、各メーカーは、新たな市場として「ISO20471」を

満たす高視認素材の開発に取り組んでいます。従来、蛍光イエローの難燃素材はありましたが、より視認性の高い蛍光オレンジの開発の要望が高まっていました。

こうした背景を受け、難燃性に優れたアクリル系合成繊維を持つ(株)カネカと、高次加工技術で評価を得る当社が、「ISO20471」の基準を満たす“蛍光オレンジレッド色”の難燃性を保持した高視認性衣服を共同開発し、この度高視認性難燃素材「mieeru」として国内外への販売を開始いたしました。国内でも、日本工業規格(JIS規格)が2015年に制定されたことにより、大手アパレルを中心に高視認性安全服の充実が図られており、今後の更なる普及が期待できます。

新商品

## 小松精練×日興テキスタイル共同開発 新感覚ウール調合繊維素材 「Karl Karl-KS(カール・カール ケーエス)」



2015年10月、ウール紡績・織物メーカーである(株)日興テキスタイルと共同で新感覚のウール調合繊維素材「Karl Karl-KS」を開発し、販売を開始いたしました。

「Karl Karl-KS」は、日興テキスタイルが持つ紡績技術により、従来のポリエステルと比べ約3割の軽量化に成功。合繊でありながらまるでウールのような温かみのあるボリューム感とふんわりとした柔らかい風合いが特徴です。合繊ならではのイージーケア性に加え、当社の高次加工技術でブリーツや光沢、透湿防水など様々な表情や機能を付与することができるため、ファッション衣料、スポーツ衣料、インテリア、バッグ等のアクセサリー分野など今後幅広い用途展開が期待されます。

新商品

## 香りで癒しの空間を演出 香る内装材 「AROMABIZ(アロマビズ)」



2016年3月、大和リース(株)と共同開発した新商品、香る内装材「AROMABIZ(アロマビズ)」を発表しました。当社と大和リースは昨年9月に環境共生事業において業務提携をしています。その共同開発の第一弾として、両社がノウハウを持ち寄り、職場環境や住環境を改善する建材として、香る内装材「AROMABIZ」の商品化を行いました。

「AROMABIZ」は、保水性の高いグリーンビズ基盤の素材特性を生かし、芳香液を吸着させることで室内に持続的に香りが漂います。また、素材の持つ土壁調の質感がデザイン性を高め、香りとともにナチュラルな癒しの空間を演出します。今後、公共施設や商業施設のトイレやエレベーターホール、ホテルのロビーなど幅広い場所での利用が想定されています。

新商品

## CFRTP(熱可塑性炭素繊維複合材料)による 新・鋼管柱脚補強材「カボコーマ・Pシート」の販売と新工法開発



当社は、鋼管を用いた道路標識や信号機などの柱の補強工事向けに、CFRTPによる鋼管柱脚補強材料「カボコーマ・Pシート」と、それを用いた工法を開発しました。

「カボコーマ・Pシート」は、研究機関のCOI(革新的イノベーション創出プログラム)とICC(革新複合材料研究開発センター)の協力のもと開発。また、この新素材を用いた工法について共同研究を行った鋼管柱メーカーであるヨシモトポール(株)を通じ、2016年4月より全国販売を開始しております。

「カボコーマ・Pシート」は、特殊な熱可塑性樹脂を含浸させた炭素繊維複合材料で、加熱すると軟化し、冷却により固化するという熱可塑性の特長を活かし、シートを事前に成形することができます。このため、従来の熱硬化性製品より施工が容易となり、工期の短縮により30%以上のコスト削減が可能となりました。国内に設置された道路標識や電灯、信号などの鋼管柱は約600万本あるといわれ、この1割ほどが更新や補修の必要があると推測されており、今後自治体など設置者からの需要が見込まれています。



## 連結貸借対照表の要旨

平成28年3月31日現在

単位:百万円

### ●資産の部

科目	当期	前期	増減
<b>流動資産</b>	18,734	22,959	△ 4,225
現金及び預金	4,179	4,074	104
受取手形及び売掛金	8,063	7,660	402
有価証券	1,400	4,410	△ 3,010
たな卸資産	4,721	6,002	△ 1,281
繰延税金資産	266	355	△ 89
その他	146	500	△ 354
貸倒引当金	△ 42	△ 44	1
<b>固定資産</b>	25,574	21,942	3,632
有形固定資産	9,272	7,586	1,686
建物及び構築物	3,864	2,969	894
機械装置及び運搬具	2,630	1,975	654
土地	2,259	2,238	21
建設仮勘定	59	82	△ 22
その他	458	319	138
無形固定資産	270	312	△ 41
投資その他の資産	16,031	14,044	1,987
長期預金	2,000	2,000	—
投資有価証券	12,570	11,180	1,389
繰延税金資産	540	169	371
その他	921	696	224
貸倒引当金	△ 1	△ 2	1
<b>資産合計</b>	<b>44,308</b>	<b>44,901</b>	<b>△ 593</b>

### ●負債の部

科目	当期	前期	増減
<b>流動負債</b>	7,529	7,392	136
支払手形及び買掛金	5,051	5,380	△ 329
短期借入金	212	185	26
未払法人税等	281	152	128
賞与引当金	395	307	88
その他	1,589	1,367	222
<b>固定負債</b>	4,371	4,283	88
退職給付に係る負債	3,636	3,649	△ 12
役員退職慰労引当金	479	479	—
その他	254	153	100
<b>負債合計</b>	<b>11,900</b>	<b>11,675</b>	<b>225</b>

### ●純資産の部

科目	当期	前期	増減
<b>株主資本</b>	30,483	30,142	340
資本金	4,680	4,680	—
資本剰余金	4,662	4,671	△ 8
利益剰余金	21,280	20,930	349
自己株式	△ 140	△ 139	△ 0
<b>その他の包括利益累計額</b>	1,712	2,470	△ 757
その他有価証券評価差額金	1,289	1,964	△ 675
為替換算調整勘定	398	483	△ 85
退職給付に係る調整累計額	25	22	2
<b>非支配株主持分</b>	212	613	△ 400
<b>純資産合計</b>	<b>32,408</b>	<b>33,226</b>	<b>△ 818</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>44,308</b>	<b>44,901</b>	<b>△ 593</b>

## 連結損益計算書の要旨

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

単位:百万円

科目	当期	前期	増減
売上高	37,981	36,662	1,319
売上原価	30,715	29,832	883
売上総利益	7,265	6,830	435
販売費及び一般管理費	6,402	6,417	△ 14
<b>営業利益</b>	<b>863</b>	<b>412</b>	<b>450</b>
営業外収益	565	582	△ 16
受取利息	55	40	14
受取配当金	121	113	7
為替差益	—	48	△ 48
持分法による投資利益	234	235	△ 1
その他	155	144	10
営業外費用	34	37	△ 3
支払利息	7	4	2
為替差損	3	—	3
その他	23	32	△ 9
<b>経常利益</b>	<b>1,394</b>	<b>957</b>	<b>437</b>
特別利益	9	10	△ 0
固定資産売却益	2	10	△ 7
投資有価証券売却益	6	—	6
特別損失	111	72	39
固定資産売却損	0	6	△ 5
固定資産除却損	107	53	53
その他	3	12	△ 8
税金等調整前当期純利益	1,292	894	397
法人税、住民税及び事業税	377	286	90
法人税等調整額	76	21	55
<b>当期純利益</b>	<b>837</b>	<b>586</b>	<b>250</b>
非支配株主に帰属する当期純利益	△ 26	△ 45	18
親会社株主に帰属する当期純利益	864	632	232

## 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

単位:百万円

科目	当期	前期	増減
<b>営業活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>2,547</b>	<b>527</b>	<b>2,019</b>
税金等調整前当期純利益	1,292	894	397
減価償却費	1,219	1,221	△ 2
引当金の増減額(減少:△)	△ 14	△ 8	△ 5
売上債権の増減額(増加:△)	△ 403	△ 388	△ 15
仕入債務の増減額(減少:△)	△ 319	△ 124	△ 194
たな卸資産の増減額(増加:△)	1,260	△ 658	1,918
法人税等の支払・還付(支払:△)	△ 308	△ 211	△ 97
その他	△ 178	△ 197	18
<b>投資活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>△ 3,236</b>	<b>△ 222</b>	<b>△ 3,013</b>
固定資産の取得による支出	△ 2,334	△ 881	△ 1,453
固定資産の売却による収入	9	130	△ 121
定期預金の預入・払戻(預入:△)	0	△ 1,371	1,371
有価証券の取得・償還(取得:△)	1,300	3,520	△ 2,220
投資有価証券の取得・売却(取得:△)	△ 2,204	△ 1,616	△ 588
その他	△ 6	△ 4	△ 2
<b>財務活動による キャッシュ・フロー</b>	<b>△ 897</b>	<b>△ 901</b>	<b>3</b>
短期借入金の純増減額(減少:△)	34	△ 84	119
配当金の支払額	△ 537	△ 446	△ 90
その他	△ 395	△ 370	△ 25
<b>現金及び現金同等物に 係る換算差額</b>	<b>△ 18</b>	<b>27</b>	<b>△ 45</b>
<b>現金及び現金同等物の 増減額(減少:△)</b>	<b>△ 1,605</b>	<b>△ 568</b>	<b>△ 1,036</b>
<b>現金及び現金同等物の 期首残高</b>	<b>6,684</b>	<b>7,253</b>	<b>△ 568</b>
<b>現金及び現金同等物の 期末残高</b>	<b>5,079</b>	<b>6,684</b>	<b>△ 1,605</b>

## 株式情報

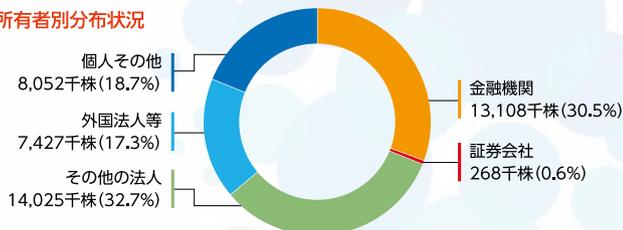
### 発行済株式数

43,140,999株

### 株主数

3,383名

### 所有者別分布状況



### 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
THE SFP VALUE REALIZATION MASTER FUND LIMITED	3,941	9.19
東レ株式会社	3,749	8.74
株式会社北國銀行	2,113	4.92
小松精練松栄会	1,532	3.57
日本生命保険相互会社	1,284	2.99
株式会社北陸銀行	1,263	2.94
三菱商事株式会社	1,250	2.91
三井住友信託銀行株式会社	1,230	2.86
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,209	2.81
株式会社クラレ	1,090	2.54

(注)持株比率は自己株式を控除して計算しております。

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日  
中間配当 9月30日

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

電話照会先 0120-782-031

URL <http://www.smbt.jp/personal/agency/index.html>

1単元の株式の数 100株

公告の方法 電子公告(当社ウェブサイトに掲載)  
<http://www.komatsuseiren.co.jp/investor/index.html>  
※事故やその他やむを得ない事由が生じた場合、日本経済新聞に掲載して行ないます。

上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部

住所変更、配当金受取方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増等について  
株主様が口座を開設されている証券会社等にお申し出ください。また、証券会社に口座を開設されていない株主様は、特別口座の口座管理機関の上記電話照会先にお申し出ください。なお、単元未満株式の買取・買増の当社にかかる手数料はいずれも無料となっております。

## 会社情報

役員 平成28年6月24日現在

代表取締役会長 中山 賢一	取締役 尾野寺 賢	監査役 高木 泰治
代表取締役社長 池田 哲夫	取締役 奥谷 晃宏	監査役 根上 健正
常務取締役 中山 大輔	取締役 向 潤一郎	監査役 坂下 清司
	取締役 三木 憲一郎	
	取締役 阪根 勇	

### グループ会社

小松精練(蘇州)有限公司	中国・江蘇省蘇州市
株式会社コマクソン	石川県能美市
株式会社コマツインターリンク	石川県能美市
株式会社パッゾ	東京都渋谷区

### 会社の概況

商号	小松精練株式会社	大阪営業所	大阪府大阪市北区梅田2丁目2番22号 (ハービスENTオフィスタワー8階)
設立年月日	昭和18年10月8日	東京営業所	東京都中央区銀座3丁目9番7号 (トランス銀座ビルディング8階)
資本金	46億8,042万円	北陸営業所	石川県能美市浜町又167番地 (小松精練株式会社 本社2階)
本社	〒929-0124 石川県能美市浜町又167番地	上海事務所	上海市延安西路2200号 (上海国際貿易センター1913号)
本社工場	同上		
美川工場	石川県白山市鹿島町1号7番地1		



小松精練株式会社

[www.komatsuseiren.co.jp/](http://www.komatsuseiren.co.jp/)

